



## ベトナムにおけるキャッシュレス決済事情

北陸銀行 国際部  
ホーチミン駐在員事務所  
グエン・ゴク・ビン・アン

### 1. はじめに

近年、ベトナムでは日本と同様にキャッシュレス決済の  
人気が急速に高まっています。クレジットカードやデビッ  
トカードの普及も進んでいますが、特筆すべきは Momo や  
ZaloPay、ShopeePayなどの電子ウォレットが消費者の信頼  
を得て幅広い世代のユーザーに利用されるようになったこと  
です。現在、Momoは約3,000万人、ZaloPayは1,500万人の登  
録ユーザーを抱えています。これらの数字はベトナムにおけるキャッシュレス決済市場  
の急速な成長を示しており、今後も増加すると見込まれています。



【筆者携帯電話内の電子ウォレットアプリ】

### 2. キャッシュレス決済の浸透

2015年以降、ベトナム国家銀行（以下、SBV）は、「モバイルマネー」と呼ばれる金融  
ソリューションを推進してきました。SBVは「モバイルマネー」を通じて、遠隔地や孤  
立した地域の住民が金融サービスにアクセスしやすい環境作りを進め、こうした取り組  
みの結果、電子ウォレットのアカウント数に関しては、農村地域での増加が顕著となり、  
ベトナム全土の小売店で利用できるようになりつつあります。

キャッシュレス決済は、日々様々な分野で急速に広がっています。公共料金や病院の  
治療費の支払いなどはオンライン決済へと移行し、パンデミック以降、Payooなどのプ  
ラットフォームを通じたオンライン上の支払いが一般的となりました。もちろん一般の  
小売店やスーパーマーケットでも、キャッシュレス決済取引の件数および金額が大幅に  
増加しています。

キャッシュレス決済の浸透はベトナムの新たなトレンドとして注目されており、多く  
のメリットをもたらしています。

顧客の安全性(=現金を持ち歩かずに済む)、利便性(=決済が短時間で済み支払金額に間違いがない)、透明性(=決済履歴が残り確認できる)を確保しつつ、事業者は購買データの活用を通じて消費拡大に向けた有効な施策を立案し実行することが可能になりました。

一方で、キャッシュレス決済にはリスクが伴います。キャッシュレス決済の普及により、セキュリティ不備の問題や詐欺のリスクが指摘されています。犯罪の具体例として、不正アクセス事例やフィッシング詐欺被害事例などが報告されており、キャッシュレス決済サービス提供者はこれらの問題に対策を講じるとともにユーザーに対して継続的に注意喚起を行っています。SBVやサービス提供者はこうした課題に適切に対処し、デジタル経済への変革を推進させて行く必要があります。

### 3. おわりに

ベトナムの各小売店舗では、MomoやZaloPayなどの電子ウォレット決済を利用する顧客に限定して商品価格の割引を行うキャンペーンを実施しているケースが多く見受けられます。

最近では、現金決済だと割引や特典が得られないため、現金決済から電子ウォレット決済に変更する人が急速に増加しています。



【コーヒーチェーン店のレジ前の様子】  
(筆者撮影)

<ご注意>文中意見は筆者の個人的見解であり、北陸銀行としての見解の反映ではありません。当レポートは作成時点の経済状況に基づき、情報提供のみを目的に作成したものです。

記載内容については利用者の判断と責任のもと、ご利用くださいますようお願いいたします。

ほくりく長城会

長城メール

発行：北陸銀行 ほくりく長城会事務局  
〒920-0024 金沢市西念1-1-3 コンフィデンス4F  
(株)人材情報センター内  
TEL: (076)254-6500 FAX: (076)254-6565  
E-mail: info@chojo-hokugin.jp